

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について

谷村第一小学校・都留文科大学附属小学校
統合準備委員会資料

令和7年10月3日（金）午後6時30分から

学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」

社会のつながりの中で学ぶことで、子供たちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができます。

このことは、変化の激しい社会において、子供たちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。

そのため、これからの学校には、社会と「連携・協働」した教育活動を充実させることがますます求められます。

目指す資質・能力



※「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。

学校と地域との「連携・協働」

近年、予測困難な新しい時代への対応とともに、より多様化・複雑化・多忙化する学校現場の課題への対応が迫られています。

長年問題視されてきた「いじめ・不登校」をはじめ、安全管理、地域の将来の作り手となる人材の育成等、学校だけでは解決が困難な課題に、地域全体で取り組むことが重要です。

学校と地域が目標や課題を共有し、協議する仕組みが、「コミュニティ・スクール」であり、保護者や地域住民等が当事者意識を持って参画することによって、様々な取り組みが活性化します。

コミュニティ・スクールとは

子どもたちを取り巻く課題の解決や「地域とともにある学校づくり」を目指し、保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参画する「学校運営協議会」を置く学校のことです。

コミュニティ・スクールの意義

育みたい子ども像や目指す学校・地域像など、「目標やビジョン」を共有し、目標の実現に向けて「連携・協働」することで、地域総がかりで子どもたちの豊かな成長を支えていくことを目指します。

コミュニティ・スクールの機能

コミュニティ・スクールは、「地域とともにある学校づくり」を進める手段として、地域が当事者となって学校運営とその一連のプロセスに参画できる仕組みです。

法律に基づき、学校運営協議会の役割や権限が明確化されているため、保護者や地域住民等が学校だけに任せることなく、学校運営の当事者として、学校と対等な立場で、継続して学校運営に関わることができます。

学校運営協議会の役割・権限

学校運営に関する基本的な方針の承認
(教育基本目標、学校経営計画、教育課程の編成など)

学校の運営状況等についての評価

学校の運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。
(特定の個人に係る職員の採用・任用は除く。)

都留市が目指すコミュニティ・スクール

学校づくりは人（ひと）づくり、
人（ひと）づくりは郷土（ふるさと）づくり

子どもたちを育む学校づくりを核にしながら、“みんな”が地域づくりに参画できるきっかけを作っていき、人と人との触れ合い、相互理解を深め、それぞれの境遇や課題が、それぞれに「自分ごと」へと変わっていく。「〇〇のために・・・」、互いを思う思いが、「ひと」を創り、「ふるさと」を創っていく。そうして醸成される、子どもたちをめぐる“信頼と愛着の輪（つながり）”と、それがいつまでも連鎖し続ける好循環の創出が見込める、学校づくり・地域（郷土）づくりに、コミュニティ・スクールが貢献していくことを期待しています。

学校と地域の「連携・協働」により実現したいこと

【子どもたちにとって】

- 地域のことをよく知っている方や専門的な仕事に関わっている方に教えてもらうことで、**学びや体験活動が充実！**
- 地域の方と一緒に地域の様々な考えや価値観を持つ人と交流することで、**多様な視点**を得たり、**自己肯定感**や**他者を思いやる心**が育まれる！
- いつも地域の方に見守ってもらっているという**安心感**を得ることができる！
- 地域のことを学ぶことで、**自分の地域のことが好きになる！**

【保護者にとって】

- 保護者同士や地域の方々と人間関係の構築につながる！
- 学校や地域に対する理解が深まるとともに、地域の一員であることを再認識できる！
- 子どもが地域の中で育てられていることへの安心感が生まれる！

学校と地域の「連携・協働」により実現したいこと

【地域にとって】

- 地域と学校の垣根を超え、子どもたちや学校との関わりの中で、相互理解が深まり、様々な新しい楽しさや学びを発見！
- 学校を通じた交流が活発になり、経験を活かすことで、自己有用感の向上や生きがいくくりなどにつながるとともに、学校が地域のよりどころになる！
- 顔の見える関係づくりがなされ、地域の安全をみんなで守るという意識が高まる！
- 学校を核とした地域ネットワークが形成され、広がるとともに、地域力の向上が期待でき、人づくり・地域づくりへとつながる！

【教員にとって】

- 地域人財を活用した教育活動が充実し、「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となり、その教育の質の向上による子どもの意欲が向上！
- 地域や保護者と顔の見える関係になり、学校の理解者や協力者が増える！
- 子どもたちの成長を見守り、応援する人口が増え、責任や役割が分割され、風通しの良い学校運営の実現へ！
- 地域の理解と協力により、子どもと向き合う時間を確保！

コミュニティ・スクールの運営

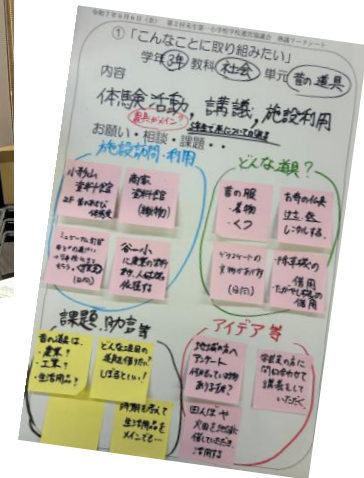
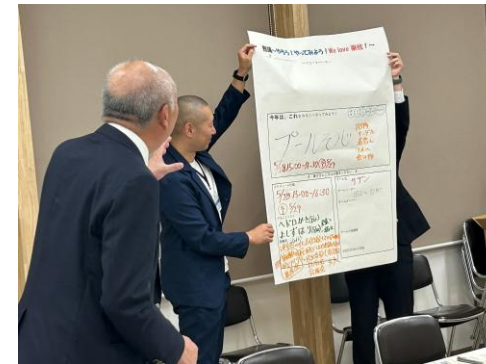
「地域とともにある学校」の備えるべき機能として、「熟議」「協働」「マネジメント」の3つの要素が必要です。

学校と地域が相互に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら一緒に子どもたちの成長を支えていくため、「熟議」は中心的な機能となります。



「熟議」とは、多様な当事者が、熟慮と議論を重ねながら、理解や関係性の構築、学び合い、課題解決等を目指す対話のことです。

様々な立場の方々がテーブルにつくことで、それぞれの視点や経験を生かしながら、新しいアイデアや考え方が生まれ、互いが果たすべき役割への理解が深まるとともに、それぞれの役割に応じた解決策や方策が洗練され、個々が納得して、子どもたちの育みや課題解決に向けて取り組むことができるようになります。



熟議の大まかな流れの参考例（約60分）

手 順	分	内 容
趣旨説明	5	前回の振り返り 目的やグランドルール（熟議の心得）の確認 等
テーマに係る情報共有	5	テーマについての知識・背景を共有
熟議（前半）	20	（自己紹介）、付箋を用いて意見をたくさん出す（ブレインストーミング）、分類
熟議（後半）	15	前半で出た意見について、方向性を持って話し合う
グループごとの発表	5	各グループが1分程度でまとめ、全体で発表（または違うグループの意見を見て回る）
振り返りやフィードバック	5	この時間の話し合いによってどんな学びや発見が生まれたかなどを振り返る
まとめ	5	アドバイザー等のフィードバック 実践へ向けた方向立て

本日の「プレ熟議」のテーマ

『私の学校自慢』

谷一小のいいところ！

附属小のいいところ！